

# 家庭と和歌

佐々木信綱

花の無い庭と文藝の趣味の無い家庭ほど、面白味  
 の無、殺風景なものは有るまい。しかして家庭に  
 文藝の趣味あらしむるは、多くはこれ主婦たる人  
 の心がけによつていある。故に家庭をして高尚に  
 且つ趣味のある家庭たらしむるに最も必要なもの  
 は、主婦の文藝的修養である。その修養には音楽  
 も繪畫も素よりよいが、文學の方面では、和歌が  
 最も適當して居ると思ふ。

何故かと云ふと、和歌は三十一字の短詩形であつ  
 て、一通り作り得るやうに成るのは決してむづか  
 しいもので無い、元來和歌は喜怒哀樂の折にふ  
 れ物に感じた聲をうたひ出るので有るから、樂  
 しいと思ふ情、悲しさに堪へぬなどを、そのま  
 \、三十一字に言ひ表はせばよいので、特別に學問  
 の素養が無くとも詠み得られる、中には、嬉しい  
 事のあつた時、もしくは悲しさにあうた時、又は

海水浴温泉などに遊んだ時、かういふ情を歌うて  
 見たいとか、あゝいゝ景色であると深く感じて  
 歌は容易に作り得られるもので無いと始から斷念  
 して、切角詠みたいといふ感情が湧いても、其ま  
 \、にやめて仕舞ふ人が多き。自分が多年數多の人  
 に教授した経験からいふと、始めて歌を詠んだ人  
 でも、一年半の間學ぶと必ず一通りに詠み得られ  
 又和歌の趣味を十分味はひ得られるやうに成る。  
 而して音楽のやうに樂器にむかはずとも、書のや  
 うに繪具を用意せずとも、衣を縫ひつゝも、子供  
 を寝させつゝも、歌は詠み得られる家事に急がし  
 い主婦にとつて、さういふ點から歌は適してをる  
 と思ふ。

元來婦人の心は、觀察が緻密で、感情が優美で、  
 かつ同情に富むの特長を有して居るから、これら  
 の人間の性質を土臺として居る和歌には、最も適  
 して居るから、又和歌を詠む習ふ事は、一方から  
 いふと、やがて是らの婦人の特質美所を益々養ひ  
 たて、行くので、實に徳性の涵養の上にも大いな  
 る價値のある事である。

我が國に大文學が出ないといふ嘆聲は久しく聞く所であるが、立派な文學や、それを作る人の出るには、其爲めにまづ一般の國民や社會の趣味性が養はれて來ねばならぬ。やせた土地から美しい花は咲かぬ、而して實に此の家庭の趣味性を發達せしめ、美しい花を咲かする土地を作るのは一に家庭の主婦の文藝的趣味の涵養にあると思ふ。これを思へば婦人の趣味性の教育といふ事は、重大なる意義のある事である。自分はさういふ理想からして、多年女子の和歌の教育に盡くしつゝ、あ

以上は専ら家庭といふ點、主婦といふ上から述べたが、能ふべくは、今の高等女學校程度の學校の上の級には、和歌の課を設置せられ、古人の和歌和歌の歴史を講じ、作歌の初歩を教へられん事を望むのである。而して更に多く和歌が普及して、婦人の趣味を養ふ上に大なる功果のあらむ事を希望するのである。

## ● 子供の話

### ▲ 人間の生れた際

セツになる隣の子を捕へて「茂ちやんは誰の子？」と云ふと「お母さんの子」と云ふ、「何處から出たの」「お腹から」「何うして出来たのだ」「お母様がね御飯を澤山食べたからそれでお腹が大きくなつて、それで出来たんだ」と答へる

「父ちやんだつて御飯は澤山食うだらう？」「そりや食べるさ」

「夫のに何故子が出来ないの」と云ふと「お乳が出ないからだ、お乳出ないのに子を生むなんて可笑しいや」何が可笑しいのたか譯らないが、大概の子供は男女を問はず堅く然う信じて居るらしい、或る四つになる兒は御母様の乳から出た相だが夫は極めて少く、大概は女から生れるといふ事を信じて居る、其の證據には男の子に御前は「子を生むか」と問ふと「生ぬ」と云ふが女の子は「大きくなつたら生む」と答へる、極めて簡単な解決を下して満足してゐる簡単な觀察、ある西洋の物語には子供が自分の弟が生れた時に母から「御醫者様が革靴の中から出して置いて行つたのだ」と云はれ其次に醫者の來た時に「犬の玩具と取換て下さい」と強請つたと云ふ話がある、中々面白い觀察だと思ふ、また兄弟の愛情と云ふものは可愛い玩具とて取換つてゐる